

NPO法人

全日本語り木小トワーク

2016. 10. 23 発行

〒376-0006 群馬県桐生市新宿 1-4-33 (Fax) 0277-43-8225 (振替) 00130 - 2 - 114808

(E-mail) welcome@japankatarinet.jp (HP) http://japankatarinet.jp/ ニュース

第 13 回全日本語りの祭り in 松江を終えて

栗栖 眞樹 (松江実行委員会・民話の会「石見」)

9月4日より3日間にわたって、「第13回全日本語りの祭りin 松江」東日本大震災・熊本地震被災地の復興を願って一語りは絆一と題して松江玉造温泉ホテル玉泉に於いて、それぞれの復興と語り部達の常若(とこわか)への祈りを込めて開催されました。

1 日目の全体会では、小泉凡・島根県立大学短期 大学部教授の「小泉八雲と語りの世界」、田中瑩一・ 島根大学名誉教授の「雪女と人魚姫」、今回の実行委 員長を務められた、酒井董美・元島根大学教授の「野 間義学とわらべ歌」が記念講演されました。地元に所 縁の主題で興味深く、小泉八雲と童歌という事で今 後の語り部活動に活かされそうです。語りでは小泉 八雲に因んだものや、佐治谷話、中学生の語りと聞 き応えあるものばかりでした。懇親交流会の後、夜 語りとして、誰でも語り場やゴーストストーリーが ありました。特に後者では薄明かりの中、君川みち 子さん他 2 名の方が語られました。君川みち子さん の再話集『女(おなご)むかし』は私達の民話の会 「石見」でも愛読者の方が多く、生で拝聴出来た上、 語りの後君川さんとお話する機会にも惠まれとても 感じ入りました。

2月目は分科会が開かれ、1部~3部まで、15の分科会が開催されました。中でも山陰の民話、八雲の部屋や古事記の出雲神話など開催地に傳わる語りが聞かれ、全国からいらっしゃった方々に語りのおもてなしが出来て良かったと感じました。出雲弁や石見弁、鳥取の方言などを始め全国のお国言葉が語られ、心が和んだ事と思います。特に語るだけでなく、全国語りの祭りに相応した舞台に演出や音響・衣装など総合的伝承芸能が垣間見られたのは今回の良き点だと思います。和太鼓・鈴や舞に依り、古来から傳わる土着的な素朴さが表現され、語りと舞楽の融合がなされ、口承だけの表現方法だけではない

事がわかりました。亦、高齢者や乳幼児への語りなどは、語りの原点であろうと思います。そして障がいのある方も安心して参加出来る体制が整っていたのは、特筆すべき事と思います。自分なりに表現したい気持ちは何者にも変えられません。幾分か語る楽しさを感じて頂けたと思います。

夕食後に初日と同様に夜語りで、出雲かんべの里の夜語りや古屋和子の妖しの世界などが行われました。台風の影響で松江ゴーストツアーが中止となったのは残念な事でした。この中で古屋和子の妖しの世界をスタッフとして拝聴しました。初日の薄明るい雰囲気より幾分か明るさを感じましたが、薩摩琵琶にて源氏物語の葵と賢木の段の、六条御息所と葵上と源氏の妖艶な関係が琵琶の音とともに語られ、濃厚な1時間が楽しめました。最終日には閉会式と観光ツアーが行われ、3日間の祭りの宴が幕を閉じました。

振り返りますと1年前から地元開催地として、松 江・出雲・隠岐・石見の各民話の会の有志が、松江 大会の実行委員長酒井先生の統率の元 5 回の地元会 議を重ねて来ました。古き昔から語り傳えられて来 た神話、民話や昔話ですが、語り部として誠心誠意 後の世代に語り継いでゆく事。私達の会でも各地に 出向き再話の作業を行っています。語り部として発 した言葉(ことのは)は言霊となって、語りを聞い た方々に届くでしょう。元元本本という考えがあり ます。語りの根本を示す言葉だと思います。元元本 本、その元本を知り、その精神を理解して、自分な りに再話をさせて頂く。元を元として元初に入り、 本を本として本心に任するという、古くから口承さ れてきた民話を、自らの心として、語り引き継ぐと いう考えだと思います。私達もこの精神で語り継い でゆきたいものです。